

---

## 第六場 ●—— “協働のまちづくり” の二つの基本的な考え方

---

これまで公共<sup>\*1</sup>の多くは「行政にゆだねられてきた公共」でした。しかし、これからの時代は、みんなの“協働”で創り、育て上げる「新たな公共」の考え方が重要となります。

また、身の回りの問題は、まず個人や家庭が解決にあたり、個人や家庭で解決できない問題は地域で解決し、それができない問題は行政が解決するという「補完性の原則」に、改めて注目することが必要です。

この二つは、“協働のまちづくり”に通じる基本的な考え方と言えます。

### [解説]

#### 『「行政にゆだねられてきた公共」から「新たな公共へ」』

行政にゆだねられてきた社会サービスや公共施設の管理そしてまちづくり全般について、“協働のまちづくり”の多様な担い手である市民と行政が、それぞれの役割分担のもとにこれを運営していく考え方が必要となります。

<sup>\*1</sup> 公共  
社会一般の利益に関するもの。

#### 「補完性の原則」

日常生活や身の回りで発生する問題は、まず自分や家庭で解決を図り、それもできない場合は、地域(コミュニティ)で、それでもできない場合は行政が行うというこの考え方は、誰が、どのように問題を解決することが最適かつ効果的・効率的か、ということでもあります。特に、地域(コミュニティ)が、その課題解決の機能を発揮するには、住民・自治会・市民活動団体などによる“市民相互の協働”が重要となります。